

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 93号

2014/05/05 発行
株式会社 立花商店
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：両市場とも先週比で下落基調、NYは一時2905ドルになる局面も

① 最高：7月 LDN 市場£1,848 /7月 NY 市場\$2,980 (4/30) 先週比 **LDN-£34/NY-\$28**
② 最低：7月 LDN 市場£1,814 /7月 NY 市場\$2,917 (5/1,5/2) 先週比 **LDN-£34/NY-\$36**
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場£34 (傾向↑) / NY 市場\$63 (傾向↑)
週内建玉推移：LDN市場 282,881 枚(4/25 終了時)⇒267,683 枚 (5/1 終了時) **-15198 枚**
NY市場 203,163 枚(4/25 終了時) ⇒201,785 枚 (5/1 終了時) **-1378 枚**

【4月28日(月)】ニューヨーク、ロンドンとも3日続落
ココア先物は3営業日続落。ニューヨーク市場の7月きりは、7ドル(0.2%)安の2946ドルで終了。ロンドン市場の7月きりは、4ポンド(0.2%)安の1844ポンドで引けた。カカオ豆主産地のコートジボワールでは、港への着荷量が引き続き増加、世界的な供給不足予想に反し、豊富な供給が示唆されている。昨年10月2日の今季初めから4月27日までの着荷量は約124万6000トンと、前年同期の113万トンを上回っている。

【4月29日(火)】ニューヨークは反発＝ロンドンは続落
ココア先物はまちまち。
ロンドン市場の7月きりは続落し、3ポンド(0.2%)安の1841ポンド。過去13週間の取引レンジ(1801～1898ポンド)の中間あたりにとどまった。
英国を拠点にするブローカーは「取引レンジは市場の強気と弱気のバランスを反映する。きょうの結果は(市場が)どこにも向かわないことを示している」と述べた。ニューヨーク市場の7月きりは反発し、5ドル(0.2%)高の2951ドルで引けた。

【4月30日（水）】ニューヨーク、値頃買いに続伸＝ロンドン反発

ニューヨーク市場は続伸。7月きりは29ドル（1%）高の2980ドルで終了した。

ロンドン市場は反発し、7月きりは7ポンド（0.4%）高の1848ポンドで引けた。市場関係者によると、このところの下落を受けて、値頃買いが入ったという。

【5月1日（木）】両市場とも反落

ニューヨーク市場は反落し、7月きりは58ドル（1.9%）安の2922ドルで終了した。一時、2910ドルまで下げた。前日は40日移動平均を下回って終了。カカオ豆主産地のコートジボワールの目先の供給見通しをめぐる楽観的見方が広がった。ロンドン市場も反落。7月きりは26ポンド（1.4%）安の1822ポンドで引けた。一時、2月26日以来の安値となる1814ポンドを付けた。

【5月2日（金）】ニューヨークは続落＝ロンドンは横ばい

ニューヨーク市場の7月きりは5ドル（0.2%）安の2917ドルで引けた。コートジボワールの潤沢な供給見通しなどが圧迫要因となる中、一時2905ドルまで値を下げ、3月3日以来の安値を付けた。ロンドン市場は横ばい。7月きりは変わらずの1822ポンドで取引された。

2、ココアバターレシオは変わらず、パウダー価格は下落(5/2)

アジアの一部の圧砕業者は今週、買い手の購買意識を引き付けるため、ココアパウダーの価格を切り下げた。一方でココアバターレシオは、イースター後に需要が低迷したこともありほとんど動きが無かった。バターレシオは需要の指標となるものであり、アジアにおけるバターレシオは2.4、欧州におけるレシオはさらに高く4月～5月渡しで2.52となっている。

インドネシアのディーラーは「アジアのバターレシオは全く動きが無い。一方でパウダーについては、一部の買い手が積極的になっており、価格は柔軟に推移している。」と述べた。

ちなみに圧砕業者はバターやパウダーの在庫状況については明かしてはいない。

パウダーは3週間前には1750～2000ドルで取引されていた。一方バターの価格はロンドン先物価格やニューヨーク先物価格にレシオを掛けることで求められる。

アジア・カカオ協会によるとアジアのカカオ豆圧砕量は2013年の第1四半期より3.7%増加し15万1,617トンとなった。しかしマレーシアの圧砕業者はココアパウダーの在庫調整をしており、圧砕量は昨年より13.6%減少し6万2,359トンとなった。

3、インドネシア：4月のスラウェシ島のカカオ豆輸出量33%下落(5/2)

インドネシアのカカオ豆主産地の輸出量は昨年4月の5,781.25トンより33%減少し3,867.43トンとなった。インドネシア全体で見ると2014年度は6%減少し42万5,000トンとなる見通しである。ちなみに最も少なか

った年は2006年であった。減少の要因の一つにカカオ豆の病気があり、農家の人々は気候の変動によって引き起こされるカカオ豆の病気と闘っている。

2014年のカカオ豆輸出量は約12万5,000トンを維持する見通しである。一方で国内のカカオ産業で需要が高まっておりカカオ豆を他国から輸入する動きが強まっている。

下記は、スラウェシ島のカカオ豆輸出量である。(2013/14期)

年	月	輸出量(トン)	昨年比
2014年	4月	3,867.43	-33%
	3月	800.00	-91%
	2月	4,622.63	-41%
	1月	760.00	-91%
2013年	12月	5,912.97	-21%
	11月	6,038.32	-36%
	10月	5,274.95	-8%
	9月	10,408.69	-40%
	8月	9,063.55	109%
	7月	8,671.88	2%
	6月	7,773.00	57%
	5月	5,654.00	-21%
	4月	5,781.25	-27%
	3月	8,662.08	147%
	2月	7,790.50	-2%
	1月	8,349.38	-6%



4、インドネシア：国内でカカオ豆が不足、圧砕業に歯止めがかかる(4/29)

- カカオ豆圧砕能力は2倍の60万トンへ近づく
- カカオ豆生産高は過去8年間で最低の42万5,000トンとなる見通し
- インドネシア国内のカカオ豆不足により輸入の動きが強まる

世界の圧砕業者がインドネシアに進出し数百万ドル規模の投資を拡大していることで、インドネシアはカカオ豆の急激な供給不足に直面している。この影響で西アフリカ諸国からの輸入が伸び、国内の弱小圧砕業者は脅威にさらされている。カカオの生豆のカカオマス、バターへの圧砕量は今年、25%増加するだろうとの業界の見通しがあるが、実際にはもっと多いただろう。

穀物メジャーのカーギル、世界最大手のチョコレートメーカーのバリーカレボー、マレーシアのガンチョンといった大手企業が、カカオ豆世界第3位の生産国であるインドネシア国内で圧砕事業に乗り出した。その動機としてはカカオ豆の輸出税をカットすることと、原料を安定的に購入することが挙げられる。地元の圧砕業者はまた、アジア・太平洋におけるチョコレートの売上を拡大しており、今後3年間で年率5%増加する見通しである。

このように、インドネシアの圧砕能力が前年対比で85%上昇し60万トンに跳ね上がった状況にある。しかし一方で不規則な天候、蔓延しているカカオ豆の病気、3億5,000ドルを投じた再生プログラムの失敗がカカオ産業に打撃を与えている。

今年のインドネシアのカカオ豆生産高は、過去8年間で最低となる42万5,000トンへと減少する見通しである。同国のカカオ産業協会の長官のSindra Wijaja氏は「小規模の圧砕業者はカカオ豆の生産量が増加するまで一時的に休業する必要があるかもしれない。」と述べた。こうした圧砕業者の一部は、工場を稼働させるために高価な輸入豆を買わざるを得ない状況にある。同協会はカカオ豆の輸入量が3倍の12万トンへと伸びる可能性を示唆しているが、一部の専門家は15万トンと見込んでいる。ちなみに昨年はインドネシアで28万トンのカカオ豆が圧砕された。

カカオ豆はスラウェシ島とスマトラ島で栽培され、その価格はニューヨーク先物価格によって決まる。ここ最近では3,000ドル前後で推移している。

ジャワ島の圧砕業者は「もしカカオ豆をスマトラ島から船で出荷して仕入れると、トンあたり50ドルの値引きを受けられる。しかしもしガーナ産のカカオ豆を購入したら、逆に330ドルのプレミアムを支払わないといけない。」と述べた。また彼は「330ドルのプレミアムは輸入税、通関費用、倉庫料の他にかかるものだ。簡単に言うと輸入の豆を使うと高くなってしまう。よって圧砕業者にとって1つの成功のカギはカカオ豆の産地の近くに工場を建てることだ。」と加えた。

農家は輸入コストを削減するために、圧砕業者はインドネシア政府に対し輸入税を5%削減し撤廃するように求めている。

カーギルは今年の半ばまでにジャワ島に1億ドル規模の加工設備を作り、7万トンのカカオ豆を加工する見込みだ。またバリーカレポーは昨年終わりにスラウェシ島に3,300万ドル規模の工場をオープンさせた。

「カーギルやバリーカレポーはインドネシアに参入し、国内のカカオ豆を買い付けていくだろう。彼らはもっと買おうと思えば資金もあり、買い付け量は増えるだろう。」とある専門家は述べた。

国際的なカカオ豆の価格は2011/12期の高値にほぼ並び、国内のカカオ豆の獲得競争によって小規模の圧砕業者はカカオビジネスから締め出されてしまう可能性がある。少なくとも国内の6つの小規模の圧砕業者は年間1万2,000トン以下の圧砕能力しかない。大手企業のインドネシア進出によって、インドネシア国内の圧砕業者が打撃を受けている。

5、コートジ：大量の降雨によりカカオ豆の乾燥が困難に(4/28)

先週、コートジのカカオ豆主要生産地に大量の雨が降り、ミッドクロップの成長促進が期待されたが、また同時に雨によってカカオ豆の乾燥が困難となり、農家はカカオ豆を十分に乾燥させるために奮闘している。

世界最大のカカオ豆生産国であるコートジのミッドクロップ(4月～5月)の取引は4月1日から始まる。月曜日のニューヨーク先物価格は14ドル(0.5%)上昇し2,967ドル、ロンドン先物価格は4ポンド(0.2%)上昇し1,852ポンドとなった。

海岸地区のサンペドロでは、2週間に渡り大量の雨がカカオの成長を促し、農家は収穫の準備に取り掛かっている。サンペドロ郊外の農家によると「収穫は来月から始められるだろう。なぜなら多くのカカオの実が大きくなり今にも完熟しそうである。」と述べた。しかし彼はまた「しかし一方で、我々は船での輸送中にカビが発生することを懸念している。」と加えた。

こうしたカビに対する懸念はコートジ西部のDuekoueでも同様であり、農業組合の指導者は「ここ最近大量の雨が降ったが、しかしもしこの状況が続くと、適切に発酵させるために問題が生じるのは確かだ。」と述べた。コートジのカカオ生産地帯の中核である西部のSoubreでは、先週先々週で130mm、51mmの降雨があった。Soubreの農家は「大量の降雨があるが、一方で日射しも十分であり問題はないだろう。」と述べた。また「生産高を向上させ、カカオの病気を防ぐためには十分な日光が必要だ。」と加えた。

こうした天候の条件は西部のGagnoa,Meagui南部のAboisso,Agbovilleも同様である。

コートジ中西部のDaloaでも、生産高は天候によって左右されるという。農家は「来月からカカオの収穫が始まり、向こう3か月は収穫のペースが落ちないだろう。」と述べた。また彼は「天候が農地を改善させた。ここ最近でカカオの実がなり始めている。私は今年のミッドクロップは昨年よりも良くなると感じている。」と加えた。

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp